

2018年度事業状況報告書

(2018年4月1日～2019年3月31日)

■2018年度事業状況報告	1頁
■2018年度貸借対照表	17頁
■2018年度理事会及び評議員会開催状況	18頁

■2018年度事業状況報告

当財団の目的は、「民族学・文化人類学等の振興を図るため、関係諸機関と連携しその普及に努める。それらの活動を通して人類の多様な社会や文化に対する市民の理解と教養を培い、社会の発展に寄与する。」と定められ、その目的を達成するための各種事業を推進するとともに、現代社会の諸問題を解く鍵として、文化人類学・民族学の視点を活かし、国立民族学博物館をはじめ各種研究機関と連携し、文化振興や次世代育成等さまざまな社会貢献活動に取り組んでいる。

2018 年度事業概要：2018 年度の公益認定に向けた作業として、継続している各種公益目的事業について、持続可能な業務体制を検討した。2018 年度の事業収入は、6 月 18 日の大阪府北部地震による約 3 ヶ月間の国立民族学博物館の臨時休館に伴い、展示案内学習支援業務は一部を除き中止、館内ショップも長期にわたって休業となり減収となったが、単年度の収支は調整できた。友の会増強に向け友の会制度を改定し新設した「ミュージアム会員」の入会件数については、震災による臨時休館の影響もあり目標を大きく下回り、会員数の減少傾向に対するさらなる見直しが必要となっている。

1.民族学・文化人類学等普及事業

一般市民を対象に民族学・文化人類学の普及のため、国内唯一の民族学・文化人類学の研究センターである国立民族学博物館の協力のもと、学術情報をわかりやすく提供する各種事業を企画・実施

- 1) 「梅棹忠夫アーカイブズ資料の整理及びそれに基づく基礎データの整備」を協力した。

別紙 1：業務報告

- 2) 民族学・文化人類学の研究促進・普及を目的とした図書の企画として、家庭学術雑誌である機関誌『季刊民族学』4 号（164 号～167 号）を編集、発行した。

別紙 2：機関誌『季刊民族学』目次

- 3) 民族学・文化人類学の普及を目的とした各種講演会・セミナー等を企画・運営した。

2018 年度は、講演会（大阪）11 回、（東京）4 回、館内見学会 4 回、国内体験セミナー 3 回、体験セミナー 3 回、海外民族学研修の旅 2 回、午餐会 1 回を実施した。

別紙 3：講演会等 開催内容

2.国立民族学博物館利用促進事業

国立民族学博物館の利用促進を目的として、一般市民を対象にした各種協力事業を実施

- 1) 国立民族学博物館の展示理解向上及び普及のための教材制作及び頒布事業を実施した。

① 特別展図録『子ども/おもちゃの博覧会』の編集協力及びデザイン業務を受託し実施

② 国立民族学博物館の展示理解向上及び普及のための教材制作及び頒布事業

ミュージアム・ショップの運営：国立民族学博物館の映像資料の複製発行及び頒布、レプリカ・ポストカード、記念品等の制作及び頒布、現地産民族資料及び民族学・文化人類学関連図書の頒布をおこなった。

2018 年度教材頒布の取扱い内容：

□レプリカ、ポストカード類：

内容）砂金の分銅等レプリカ、ポストカード

□現地産民族資料（約 100 カ国）

内容）芸能・儀礼資料(仮面、楽器他)、生活資料(衣類、嗜好品、装飾品他)

□民族学・文化人類学関連図書・映像音響資料

内容）図書約 4,000 種、民族音楽等の CD・DVD 約 50 種

□記念品（オリジナル・グッズ）、便宜共用品

内容）クリアファイル、一筆箋、T シャツ、レターセット、スタンプ、トートバッグ、切手、雨傘 他

2) 国立民族学博物館の普及事業を各種実施した。

①「国立民族学博物館友の会」の運営

国立民族学博物館、及び民族学・文化人類学の普及を目的とし、国立民族学博物館と市民のあいだのかけはしとなる「国立民族学博物館友の会」を運営し、博物館の活動の支援をおこなった。

②「国立民族学博物館友の会」会員の増強

2019 年 3 月末現在の件数（入金）：維持会員 121 口（法人 59 社 / 個人 4 名）、正会員 1,513 名、家族会員 56 件、ミュージアム会員 80 件、みんぱくフリーパス 92 件、キャンパスメンバーズ 8 件

2018 年度友の会増強への取り組み

民博と「友の会」覚書を取り交わし、それぞれの役割を明確にし連携していく確認をおこなった。

<国立民族学博物館友の会制度一部改定2018年4月スタート>

市民による博物館への支援と積極的な活用を目的とし、友の会制度を一部改定した。多くの方々に幅広くご参加いただき、文化人類学及び民族学、国立民族学博物館の活動に関心を持っていただく機会を増やすため、「正会員」へのサービスを拡充するとともに、「ミュージアム会員」をあらたに設けた。民博紹介を兼ねた「ミュージアム会員」のチラシの作成、近隣の施設へ設置した。

・「博物館活動を支援する会員」： 維持会員（個人、法人）、正会員（個人、法人）

家族会員（正会員個人の同居家族に限る）

・「博物館を活用する会員」： ミュージアム会員、みんぱくフリーパス

・「キャンパスメンバーズ」

※友の会相互割引提携館の追加：国立科学博物館

※新規キャンパスメンバーズ登録として、京都市立芸術大学が追加

③ 国立民族学博物館広報誌『月刊みんぱく』の編集協力・制作及び編集事務を受託し実施した。

④ 国立民族学博物館オリジナルカレンダーの制作及び広報普及活動をおこなった。

⑤ 国立民族学博物館外部広報事業

「阪急生活楽校」との連携事業の実施

大阪の表玄関、梅田に位置している阪急うめだ本店に設けられた阪急うめだホールでは、新しい生活文化の発信基地として、講演会や展示会等さまざまな目的で活用されている。国立民族学博物館の広報を目的とし、「阪急生活楽校」との連携事業と位置づけた講演会を開催する。

2018 年度は、下記の内容を開催した。 別紙 7：開催内容

タイトル：「世界遺産マチュ・ピチュ ―神秘のベールを剥ぐ」

講師：関 雄二（民博教授）

開催日：2018 年 11 月 26 日（月）

会場：阪急うめだ本店

主催：千里文化財団 阪急うめだ本店 特別協力：国立民族学博物館

3) 国立民族学博物館来館者の学習支援事業（受託事業）

- ① 展示案内学習支援等業務を受託し実施した。
展示資料に関する情報提供・案内・学習支援、各展示場の施設・設備の案内、
看視業務をおこない、来館者への研究成果の情報提供を有効におこなう業務
- ② 研究資料整理・情報化及び利用管理業務を受託し実施した。
標本資料及び映像・音響資料に関する情報の作成及び資料の整理等をおこなうとともに、
情報サービス、展示準備・展示運営のための資料管理及び情報の作成・管理等業務
- ③ 民族学資料共同利用窓口業務を受託し実施した。
国立民族学博物館の民族学資料（標本資料、文献図書資料、オリジナル映像・音響資料及び
研究アーカイブズ資料）について館内外からの問い合わせに対応する窓口業務
- ④ ゼミナール・研究公演等受付案内業務を受託し実施した。
- ⑤ 「みんぱくウィークエンド・サロンー研究者と話そう」実施業務を受託し実施した。
- ⑥ シャトルバス利用者の誘導・看視及び案内等業務を受託し実施した。
- ⑦ 関連催し物の開催支援各種業務を受託し実施した。
 - ・ JICA「博物館とコミュニティ開発」コース「ミュージアムショップマネジメント、
商品開発」講義指導 他
 - ・ 国際シンポジウムの運営に係る業務
- ⑧ 臨時休館に伴う展示案内学習支援等業務の代替業務として、下記を受託し実施した。
 - ・ 基幹コレクションの整理作業業務
 - ・ 国立民族学博物館図書室における落下資料再配架作業

4) 国立民族学博物館活動に協力する各種事業

国立民族学博物館特別展及び企画展に対する協力として各種広報活動を実施した。

開館 40 周年記念特別展「太陽の塔からみんぱくへー70 年万博収集資料」（3 月 8 日～5 月 29 日）、特別展「工芸継承ー東北発、日本インダストリアルデザインの原点と現在」（9 月 13 日～11 月 27 日）、特別展「子ども/おもちゃの博覧会」（2019 年 3 月 21 日～5 月 28 日）、企画展等各種催しの広報活動をおこなった。

5) 第 35 回人文機構シンポジウムの実施支援業務（受託事業）

タイトル：レクチャー&コンサート「中東と日本をつなぐ音の道（サウンドロード）
——音楽から地球社会の共生を考える」

※中東地域研究拠点企画事業 総括：西尾哲夫（民博教授）

開催日時：2019 年 3 月 23 日 13：30～16：30

会場：東大寺総合文化センター金鐘ホール

参加人数：259 名（一般 237 名、関係者 22 名）

3. 博物館活動支援及び調査研究事業

博物館に集積された知的財産を活用するプログラムを企画し、そのあり方を調査研究するとともに博物館活動を支援

- 1) 博物館に集積された資料と情報の活用方法及び博物館等の連携のあり方に関する調査をおこなった。

① 出前授業プログラム開発及び普及

2018 年度実施した出前授業：

「世界の文化で遊んで学ぼう！出前授業プログラム—風呂敷を使って、包んでみよう」

日時：2018年8月31日（金）9：20～10：20、10：40～11：40 ※2クラス、2コマ

開催場所：大阪市立加美東小学校 対象：小学校2年生

人数：70名（35名 × 2クラス）

② 各地の博物館等の施設を活用する巡回展

2018年度実施した巡回展：

タイトル：岡山市立オリエント美術館特別展

「国立民族学博物館コレクション ビーズ 一つなぐ・かざる・みせる」

会期：2018 年 9 月 22 日（土）～ 11 月 25 日（日）（56 日間）

入場者数：7,205 人

別紙 8：巡回展 開催報告

2) 博物館運営や展示のあり方に関する調査研究

指定管理者制度における博物館運営に関する調査、巡回展のための什器に関する調査、博物館におけるミュージアム・ショップの役割に関する調査をおこなった。

3) 各地の博物館展示案内等の編集業務

日本生命財団より、島根県立三瓶自然館展示案内『峰々の記憶をたどって』

（2019 年 3 月 1 日発行）の編集協力を受託し実施した。

4.地域活性化、文化振興協力事業

多様な文化の振興をめざし、各種文化活動に協力した。

1) 松下幸之助記念財団から、第 27 回「松下幸之助花の万博記念賞」選考に関する委員会運営業務を受託し実施した。

5 月：選考委員会の開催

6 月：推薦人へ推薦の依頼文書送付

8 月～9 月：推薦内容の集約及びまとめ 10 月：選考委員会の開催

参考）2019 年 2 月 3 日：第 27 回「松下幸之助花の万博記念賞」受賞式

2) 「日本展示学会」の事務業務を受託し実施した。

会員管理、理事会・総会・研究大会（6 月）及び「展示論講座」（9 月）の開催協力

3) 同人雑誌『千里眼』の編集を受託し、第 142 号～第 145 号の 4 号を発行した。

2019 年 3 月 1 日時点 同人数 54 名

4) 長野県との「信州の山岳文化創生事業」の推進に関する包括連携協定に基づく協力

「梅棹忠夫 山と探検文学賞」にかかる協力

参考）授賞式及び講演会 2018 年 5 月 20 日（会場：信濃毎日新聞松本本社）

「梅棹忠夫アーカイブズ資料の整理及びそれに基づく基礎データの整備」業務報告

みんなくホームページ (HP) で公開している梅棹アーカイブズ全リストの、「一件ファイル」(約 1 万件)、「現地調査ファイル」を重点的に点検。内容確認、リスト、資料目録等、データベース (DB) の基礎データを作成。原資料の保存 (修理)、保管 (排架、棚位置確定) 整備を行い、利用、活用 (閲覧、資料利用、Web 公開、研究支援、出版、展示、見学等) を促進した。

■ 整理と基礎データ整備：国立民族学博物館 HP 公開中の梅棹アーカイブズ「全リスト」より。

「6. 一件ファイル」は、約 1,086 件の内容確認、点検。現物ファイルの棚位置を確定し、「保管台帳」と「Web 公開用リスト」の整備。

また、不足が判明した「著作」、「引紹批言」等の現物を資料補填、DB 更新。

「8. 現地調査ファイル」は、1950 年代の「白浜調査」、1963-64 年の「京都大学アフリカ学術調査隊」、1960 年代の「万国博をかんがえる会」、「第 7 回国際人類学・民族学会議 (ソ連)」、内容整理と基礎データ整備。

「著作現物棚」の整理と整備 (コレクション「梅棹忠夫著作物」の書籍、雑誌、新聞記事等、約 6,800 点) は、デジタル化 (研究閲覧用画像データ作成) を進めるため、現物と DB「梅棹忠夫著作目録 (1934～)」のレコードを点検、整備 (対象資料：1966 年 1 月～1972 年 12 月、933 点)。

■ 資料のデジタル化 (学術研究用 累計約 48,000 コマ)：画像、画像目録を作成。【現地調査ファイルほか】94 フォルダー、約 4,900 コマ、【梅棹忠夫著作資料】1,061 フォルダー、1,225 コマ作成。

■ 資料目録作成：資料デジタル化に合わせ、「資料目録」約 700 レコード作成。

■ 国立民族学博物館 HP での Web 公開：DB『梅棹忠夫著作目録 (1934～)』は、309 件更新。

『梅棹忠夫アーカイブズ』は、画像新規公開 5 点、リスト更新、単語検索機能付与 9 リスト。

■ 対応した利用状況：資料利用、研究支援、問い合わせ、閲覧、展覧会開催、見学、情報提供等 189 件。

■ 資料利用の支援と成果物 (「みんなく 40 年の宝物」『文藝春秋』2018 年 6 月号ほか 16 件)。

■ 「引紹批言録」整備：梅棹忠夫逝去後の記事の整備 (約 700)、新規情報収集とレコード作成。

■ 修理対象資料選定など：修理対象資料を選定し、保存保管の環境整備 139 点。

■ みんなく図書室と関連した整理：書籍、逐次刊行物等の寄贈。図書室での整理保留資料 (名簿、各種組織発行の印刷物等) の整理方法検討。

■ 写真資料の整理：「梅棹忠夫写真コレクション (全 35,420 件)」(館内限定公開)「注記」情報の更新等。

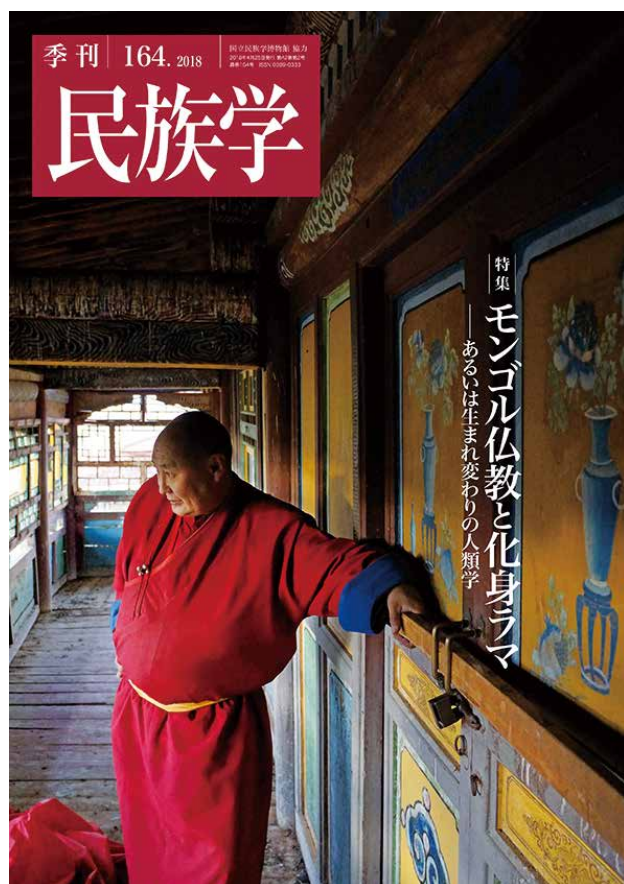
■ 室運営の業務、報告、記録：課題解決、進捗や計画を行うミーティングを 11 回開催し、「記録」作成。

■ 室運営に関わる事務書類の整備：「研究アーカイブズ利用申請書」様式改訂の作成協力。

■ 事務 (書類整備、作成) 等の支援：運営事務全般の支援、協力。

■ その他：「大阪府北部の地震」(2018 年 6 月 18 日発生) の復旧、記録 (写真と文)、及び今後の安全対策。

164号 (2018年4月25日発行)



季刊 164. 2018 国立民族学博物館 協力	
民族学	
[目次]	
003 特集 モンゴル仏教と化身ラマ ——あるいは生まれ変わりの人類学 004 化身ラマを人類学する! 島村 一平 006 化身ラマたちの故郷を訪ねて ——モンゴル国 中西部の旅から 島村 一平 021 モンゴルにおける化身ラマの歴史 ——ジェブツワンタンパ・ボクトを中心として 松川 勤 031 活仏の素顔に出会う旅 ——内モンゴルの化身ラマ 趙 芙蓉 043 困ったときのラマ頼み ——祝術実践としての現代モンゴル仏教 島村 一平 045 ジェブツワンタンパ9世か、 ガンダン寺僧院長か? ——モンゴル仏教の最高指導者をめぐる相克 ジャダムビーン・ハグワデムナグ/満永 葉子 訳 057 チベットへの聖霊神シュゲンとモンゴル ジャダムビーン・ハグワデムナグ/満永 葉子 訳 059 化身ラマのグローバルな活動が 紡ぎ出していくもの ——アジャ・リンボチュの事例から 滝澤 克彦 069 モンゴル化身ラマ列伝 松川 勤/滝澤 克彦/趙 芙蓉/島村 一平	073 キリスト教徒が伝えた シンドバード航海記 西尾 哲夫 079 生活必需品から文化と近代化を考える[4] トルコの嫁入り道具の 今昔をひも解く 田村 くらら 089 国立民族学博物館開館・友の会発足40周年 記念対談 人類文化の普遍性をさぐる ——文化人類学と霊長類学 山極 壽一/吉田 恵司 102 本欄 焼酎研究の記念碑的名著の復刊 ——『焼酎の歴史』のち——昭和45年、西園山村の記録 小山 修三 表紙 遠くを見つめるガチェンラマ寺院の僧院長 文・写真・島村 一平 写真提供・協力 モンゴル科学アカデミー—歴史学・考古学研究所、ラミンツァン寺院、ラミンツァン寺院、 ガンツァンツェンツェン寺院、Dhondydrag Gonpa, ガンツァン寺 学術文化研究所、R. オトゴンバタル、羅日達、李文勝、内モンゴ ル文哲学、シラムレン寺院、シレート社、G. Batsukhan, Bogd Khan Palace Museum, Asian Buddhist Conference for Peace, S. Amarsanaa, Gandantegchenling Monastery Archive, Kunze, Public Relations Department, Gandantegchenling Monastery, The Office of the Dalai Lama, kadampa.org, Fine Arts Zanabazar Museum, D. Dashdulam, Tserenpil, M. Pagnabulan, Syntse Orthodox Archdiocese, Aleppo, Heli Museum & Manuscript Library, Saint John's University, フラ ンス国立図書館、Chris Henrichwood, 山崎壽一、吉田恵司 本文中、撮影者・提供者を記載していない写真は執筆者の撮影・提供 によるものです。

165号 (2018年7月25日発行)



季刊 165. 2018 国立民族学博物館 協力	
民族学	
[目次]	
003 特集 岡本太郎の民族学 008 岡本太郎と民博 ——70年万博の遺産の現在 古田 恵司 022 人間の根源的な生命力(抄) 岡本太郎・梅村 忠夫 025 岡本太郎がバリーでうけたもの 安井 龍 030 私と人類学 ——バリー大学民族学科のころ 岡本 太郎 032 岡本太郎の「仮面」 具瀬 千恵 [太郎と龍文] 038 戦後日本社会と《太陽の塔》 川口 幸也 044 土偶としての《太陽の塔》 豊田 亜紀子 [フィールドワークする太郎] 050 岡本太郎のメキシコ 今組 龍太 057 岡本太郎が発見した韓国 朝倉 敏夫 [太郎を読みなおす] 064 婆たちの発見の書 ——『神秘日本』 赤坂 蓮雄	068 二つの極、二つの学の総合 ——『沖縄文化論 忘れられた日本』 安藤 礼二 072 石と紐紐の神話 ——『美の呪力』 石井 匠 078 子どもは小さな原始人 ——岡本太郎と日本の絵本 寺村 摩耶子 081 岡本太郎 略年譜 082 岡本太郎をもっと知るために 083 生活必需品から文化と近代化を考える[5] 生活用品から見る タイ山地民の生活変化 西本 陽一 093 日々を暮らし 世界を織りあげる ——アーミッシュ・キルト 鈴木 七菜 表紙 メキシコの岡本太郎 文・編集部 写真提供・協力 公益財団法人岡本太郎記念現代芸術振興財団、岡本太郎記念館、 川崎市岡本太郎美術館、大阪府日本万国博覧会記念公園事務所、 東京国立博物館、東京大学総合研究博物館、岡山県立博物館、岡山大学 博物館、京 拓哉、スズキ コージ、荒井 良二、ADACP & JASPAR、 豊田 亜紀子、原田 一人、松本 公二 本文中、撮影者・提供者を記載していない写真は執筆者の撮影・提供 によるものです。



	季刊 166. 2018 国立民族学博物館 協力	
	民族学	
	[目次]	
	 特集 旅する楽器	067 豚を殺して親族になる 吉岡 政雄
003		073 生活必需品から文化と近代化を考える[6] 「良き」女性の観念と生活用品 ——南インド女性の価値観とは 松村 恵理
004	南アジア、弦の響き 寺田 吉孝	
009	南アジアの撥弦楽器 解説：小日向 英後	083 有明海周辺のウナギ漁[下] ウナギ漁の今昔、資源回復を考える 中尾 節祐
010	インタビュー タゴール家とインド音楽 サンディップ・タゴール	102 本棚 「私たちの社会をも分析できる視座」 私たち(移動社)のなかのイスラーム ——モロッコのベルベル系農民の生涯と信仰をめぐる人闘争 橋原 敦子
020	シタールとタンプラー ——南アジアのリート系楽器の旅 小日向 英後	
027	サロード誕生の秘密 田森 麗一	
035	中央アジアからインドへ 短棒の撥弦リュートの旅 ジェニファー・C・ボスト	
043	打弦楽器をめぐる試行錯誤 ——インド・イランのサントゥール 谷正人	表紙 ドクター 写真—沖 守弘 文 —寺田吉孝
051	撥弦楽器タンブールの 多様な音風景 米山 知子	写真提供・協力 沖 守弘、国立民族学博物館、サンディップ・タゴール、東京国立博物館、 TNAI Image Archives、イルファーン・ムハンマド・ハーン、 National Academy of Music, Dance & Drama, New Delhi, Hironori Horine Sakata, Japax Vrasat Foundation India, Yusuf Erce Enthalau、トコ文化センター・東京、Frank Wooters、 鹿島島根ウナギ資源増進対策協議会、高知県水産振興部経済政策 課長、佐藤正義、国交省通関川河川事務所、本誌発行、田中 元、 菊野ひとみ等
059	ボロボドゥールに描かれた楽器 ——東南アジアとインドの交流 福岡 正太	本文中、撮影者、提供者を記していない写真は執筆者の撮影、提供によるものです。



	季刊 167, 2019	国文学研究資料館 協力
	民族学	
	[目次]	
	[特集]	
	二つの顔をもつ山 ——世界遺産・富士山	
004	富士山の世界遺産 秋道 智彌	066 [アイコンとしての富士山] 富士図のイコロジー 竹谷朝貞
	[火と水の山 富士山]	076 富士山というナショナルアイコン 松島 仁
014	火の山としての富士山 内山 薫	086 不可視の現実をつくるということ リチャード・ノル/島村一平訳
018	水と世界遺産を考える 秋道 智彌	096 生活必需品から文化と近代化を考える① 沖縄・八重山諸島の台所の近代化 ——波照間島を事例に 加賀谷 真梨
	[信御の山 富士山]	表紙 二重富士新願 文 = 宮元 隆誠 写真 = 西川 柳一
030	富士信仰の歴史 ——北面を中心に 堀内 眞	写真提供・協力 HPRM、静岡県観光協会、富士市旅行株式会社、山梨県観光生活部 管理委員会、富士山登山安全対策センター、富士市産業文化財セン ター、富士観光局、UNESCO、富士国際青年・村民協議会科産保 護協会、山梨県民野外伝舎、一般社団法人全国自然環境保全協会の連合 会、静岡県立、産業技術総合研究所、静岡県、東京都、大田町、関子 寺、国立国会図書館、ユネスコミュージアム、静岡県中央図書館、 富山公文書館、一般社団法人ふじやま観光振興サービス、徳田勝 彦上野樹、小池仁也、山梨県立博物館、静岡県立美術館、花 岡大学ステナビリティ教育研究センター、横浜環境資料館、法政 大学、東京国立博物館、足立孝、平成創設記念館、和歌山市久保物誌念 美術館、松本清張館、江戸時代博物館、明治大学三軒茶屋駅前分館、 参事院立博物館、福岡県、大分県、美濃町史、名古屋、入道、 一般社団法人北見青森、東京国立近代美術館、MOAAT/CN/Furumori, AUS/スウェーデン国立美術館、本郷文庫、ペルー国立シロウアン博物館、 静岡県民芸館、津山県土曜美術館、国立近代美術博物館、明治神宮、 早稲田大学博物館、芳沢功子の鳥獣園、四国動物実業教育館、静 岡県立山手湖遊覧センター、八戸市ニクソワカミュージアム、 島村一平、砂子・アラスカパント、昭和製糖
032	地元住民と来訪者 小笠原 舞	
	[見る対象としての富士山]	
050	みえる富士、かくれる富士、 つめる富士 池口 仁	
056	欧米人が見た富士山 江戸・明治 竹村 功	
		本文中、撮影者・提供者を記しにくい写真は執筆者の撮影・提供 によるものを示す。

国立民族学博物館友の会 講演会等 開催内容（協力：国立民族学博物館）

①「国立民族学博物館友の会」講演会

【大阪】毎月第1土曜日 13:30～14:40（懇談会・見学会 14:50～15:30）

会場 国立民族学博物館

※ 2018 年 7 月は大阪府北部を震源地とする地震の影響に伴う民博の臨時休館（6/18～8/23）のため、友の会講演会は実施しなかった。8 月はニフレルを会場に講演会をおこなった。

第 476 回「文化遺産としての日本万国博覧会——人類の進歩と調和を再考する」

【開館 40 周年記念特別展「太陽の塔からみんぱくへ——70 年万博収集資料」関連】

4 月 7 日 講師：鈴木 紀（民博准教授）

参加人数：51 名

70 年万博開催時に収集された民族資料と太陽の塔を手がかりに、万博のテーマ「人類の進歩と調和」の意味を再考した。

第 477 回「富士山——水と世界遺産を考える」

【第 79 回体験セミナー関連／みんぱく名誉教授シリーズ】

5 月 5 日 講師：秋道 智彌（山梨県立富士山世界遺産センター所長、民博名誉教授）

参加人数：54 名

2013 年 6 月 22 日にユネスコの世界遺産に登録された富士山。富士山の水と生活や文化、信仰との関わりの歴史を振り返り、世界遺産としての意味を考えた。

第 478 回「カフィル・カラ遺跡とゾロアスター教——発掘調査で出土した木彫り板絵から読み解く」

6 月 2 日 講師：寺村 裕史（民博准教授）

参加人数：50 名

ウズベキスタンにあるカフィル・カラ遺跡から発掘された木彫り板絵を手がかりに、図像から当時の文化背景を読み解くとき、遺跡の性格について考えた。

第 479 回「日本人のブラジル移住とコーヒー文化の逆流——カフェパウリスタ箕面喫茶店を中心に」

【みんぱく名誉教授シリーズ】

8 月 10 日 講師：中牧 弘允（千里文化財団理事長、吹田市立博物館長、民博名誉教授）

参加人数：22 名

ブラジルサンパウロ州政府からコーヒー豆の無償提供されたカフェパウリスタがオープンしたことを期に広がる日本のコーヒー文化について紹介した。

第 480 回「絶滅危惧生物と人の交わり——捕獲、鑑賞、保全を中心に」

9 月 1 日 講師：岸上 伸啓（人間文化研究機構理事、民博併任教授）

参加人数：35 名

北アメリカに生息するホッキョククジラやラッコ、ホッキョクグマを例にあげ、絶滅危惧生物と人の交わりを歴史的な視点から考えた。

第 481 回「地球時代の片隅で——あるインディアンとウミガメの物語」

10 月 6 日 講師：高木 仁（民博外来研究員） 参加人数：33 名

大航海時代に英国の保護下にあったカリブ海で暮らすインディアンたちを例に、稀少動物のアオウミガメと人との関わりを、研究成果を紹介しながら考えた。

第 482 回「震災を経ても土地に生きる——南三陸町波伝谷、12 年間の映像記録を通して」

【特別展「工芸継承——東北発、日本インダストリアルデザインの原点と現在」関連】

11 月 3 日 講師：我妻 和樹（映画監督）日高 真吾（民博准教授）

参加人数：45 名

東日本大震災以前から南三陸町波伝谷を撮り続けている映画監督を招き、人びとが災害を経ても土地に生きること、地域とともに生きることがもつ意味を考えた。

第 483 回「アーミッシュの信仰と文化——歴史から現代へ」【企画展「アーミッシュ・キルトを訪ねて——そこに暮らし、そして世界に生きる人びと」関連】

12 月 1 日 講師：踊 共二（武蔵大学教授） 参加人数：84 名

17 世紀のスイスに起源をもち、現在は北米の田園地帯に暮らすアーミッシュ。来歴とともに、習慣や物質文化の紹介をとおして、その暮らしぶりを紹介した。

第 484 回「南の島の贈りもの、民博からのお返し——研究成果の現地還元とは」

【みんなく名誉教授シリーズ】

2019 年 1 月 5 日 講師：須藤 健一（堺市博物館館長、民博名誉教授） 参加人数：51 名
人類学者と被調査者との関わり方について再考を促した。調査で得た情報や知識や技術や資料を現地の人びとにどのような形で還元できるのかを考えた。

第 485 回「アンデスの箱型祭壇が伝えるもの——農村の生活から歴史記憶まで」

2019 年 2 月 2 日 講師：八木 百合子（民博助教） 参加人数：49 名

ペルーの民衆芸術のひとつ箱型祭壇。祭りや生活風景、農民が犠牲になった歴史を物語るこの祭壇から、同地の歴史と作品が生まれる背景について紹介した。

第 486 回「キリスト教で読み解く韓国の歴史と文化」 ※第 2 土曜日に開催

2019 年 3 月 9 日 講師：太田 心平（民博准教授） 参加人数：43 名

宗教をもつ者のうち、約半数がキリスト教徒である韓国。キリスト教が普及した背景とともに、キリスト教を手がかりに韓国の近現代史や若者たちの生き方について紹介した。

② 国立民族学博物館友の会 東京講演会

◎東京：モンベル御徒町店

第 122 回「のこされたミッション——EEM（万博資料収集団）からみんなくへ」

【開館 40 周年記念特別展「太陽の塔からみんなくへ——70 年万博収集資料」関連】

4 月 14 日（土） 講師：野林 厚志（民博教授） 参加人数：28 名

70 年万博開催当時、太陽の塔の地下に展示された世界各地の民族資料。それを収集した EEM の活動と、国立民族学博物館創設にいたる経緯を、当時の記録をもとに紹介した。

◎東京：モンベル御徒町店

第 123 回「ヒンドゥー教祭礼の読み解き方」【第 92 回民族学研修の旅関連】

6 月 23 日（土） 講師：三尾 稔（民博教授） 参加人数：47 名

ヒンドゥー教祭礼は神話上の出来事と生業のサイクルの節目におこなわれることが多い。
インド北西部の祭事暦を例に、祭に込められた思い、人びとの願いについて考えた。

◎東京：モンベル御徒町店

第 124 回「野次から応援へ——応援の比較文化論の試みから」

12 月 8 日（土） 講師：丹羽 典生（民博准教授） 参加人数：33 名

応援はスポーツや政治の場などに見出すことができる。世界各地の応援の現場を、担い手
やパフォーマンス、応援する組織の形成具合などに着目して紹介した。

◎東京：モンベル御徒町店

第 125 回「米国先住民ホピの暮らしと世界観」

2019 年 3 月 9 日（土） 講師：伊藤 敦規（民博准教授） 参加人数：44 名

米国アリゾナ州のグランドキャニオンの近くに保留地を持つ先住民ホピ。資料解説映像を
とおして、自然とともに暮らすホピの人びとの暮らしと世界観を紹介した。

③ みんなく見学会

第 71 回 開館 40 周年記念特別展「太陽の塔からみんなくへ——70 年万博収集資料」

4 月 7 日（土） 講師：鈴木 紀（民博准教授） 参加人数：45 名

第 72 回 特別展「工芸継承——東北発、日本インダストリアルデザインの原点と現在」

11 月 3 日（土・祝） 講師：日高 真吾（民博准教授） 参加人数：40 名

第 73 回 企画展「アーミッシュ・キルトを訪ねて——そこに暮らし、そして世界に生きる人びと」

12 月 1 日（土） 講師：鈴木 七美（民博教授） 参加人数：70 名

第 74 回 朝鮮半島の文化展示場

2019 年 3 月 9 日（土） 講師：太田 心平（民博准教授） 参加人数：30 名

④ 体験セミナー

第 78 回「世界の製藍、日本の藍染め——気候と風土に育まれた色、藍を知る」

実施日：①5 月 26 日（土） ②27 日（日）[各 1 日間・滋賀県]

講師：井関 和代（大阪芸術大学名誉教授）協力：森 義男、森 芳範（紺九）

参加者数：5 月 26 日 19 名、27 日 20 名

世界中で親しまれる藍。滋賀県で紺屋を営んできた紺九を舞台に、世界各地の製藍と染料
を得るための知恵をさぐり、藍染め体験をとおして日本の藍について理解を深めた。

第 79 回 「富士山——信仰の世界」

実施日：8 月 26 日（日）～8 月 27 日（月） [山梨県]

講師：秋道 智彌（山梨県立富士山世界遺産センター所長、民博名誉教授）

参加者数：23 名

災害をもたらすことから恐れられ、古くより山岳信仰の対象とされてきた富士山。世界遺産にも登録された富士山の魅力を富士山信仰の世界からさぐった。

第 80 回 「長崎県、潜伏キリシタンの足跡を訪ねる——生月島、平戸島、上五島をめぐる」

実施日：2019 年 2 月 22 日（金）～2 月 25 日（月） [長崎県]

講師：宮崎 賢太郎（長崎純心大学客員教授）

参加者数：23 名

カクレキリシタン組織がのこる生月島、キリスト教流入の地平戸島、多くの潜伏キリシタンが移り住んだ上五島を訪ね、キリシタンの歴史と現在の信仰のあり方をさぐった。

⑤ 民族学研修の旅

第 91 回 「モンゴル、遊牧の民に出会う——揺籃の地オルホン川上流域と草原都市ウランバートルを訪ねる」 ※2017 年度、参加希望者が多かったため再度実施。

実施期間：8 月 8 日（水）～8 月 15 日（水） [8 日間・モンゴル国]

講師：小長谷 有紀（民博教授）

イチンホルローギーン・ルハグワスレン（モンゴル科学技術大学教授）

参加者数：17 名

遊牧民の興亡に歴史を物語る史跡が点在するオルホン川上流域、国の人口の半数が暮らす首都ウランバートルを訪ね、歴史背景とともに遊牧民の暮らしについて理解を深めた。

第 92 回 「融合と共存の北西インドをゆく——女神信仰とインド叙事詩の祭礼の期間に訪ねる」

実施期間：10 月 13 日（土）～10 月 22 日（月） [10 日間：インド]

講師：三尾 稔（民博教授） 参加者数：16 名

雨季明けにおこなわれるふたつのヒンドゥー教祭礼にあわせて現地に赴き、諸勢力の興亡を物語る史跡や信仰の異なる宗教施設を訪ね、人びとの多様な価値観をさぐった。

⑥ 午餐会

第 203 回 「人類がつくりだした巨大な祭典、万国博覧会——知的貢献の可能性をめぐって」

実施日：7 月 12 日（木）

講師：中牧 弘允（千里文化財団理事長、吹田市立博物館長、民博名誉教授）

参加者数：21 名

人類がつくりだした巨大な祭典、万国博覧会の現代的な意味とともに、2025 年の万博開催の意義について考えた。

⑦ トークイベント「時と場所をつなぐビーズ」

実施日：11月25日（日）

話者：四角 隆二（岡山市立オリエント美術館）、坂 憲一（トーホー株式会社）、
池谷 和信（民博教授）

会場：岡山市立オリエント美術館

主催：岡山市立オリエント美術館、人間文化研究機構北東アジア地域研究、千里文化財団

参加者数：65名（うち友の会受付5名）

岡山市立オリエント美術館で開催された展覧会「ビーズ」にあわせ、展覧会企画者、古代ガラス研究者、ガラスビーズ開発の専門家による個別発表、鼎談を実施。古代から現代にいたるガラスとビーズの潮流を概観した。



岡山市立オリエント美術館でのトークイベント

外部広報事業

阪急生活楽校「世界遺産マチュ・ピチュー神秘のベールを剥ぐ」開催報告

1. 企画目的 大阪の表玄関、梅田に位置している阪急うめだ本店に設けられた阪急うめだホールでは、新しい生活文化の発信基地として、講演会や展示会等さまざまな目的で活用されている。国立民族学博物館の広報事業として、阪急うめだホールを会場に一般市民を対象とした講演会を開催し、世界の多様な文化に触れる機会を提供した。
第1回目は、日本人に馴染み深いインカ帝国時代の遺跡マチュ・ピチュをテーマに取りあげ、遺跡が担った役割や探検家による発見の経緯、地元住民と世界遺産との関係などを紹介した。
2. 名 称 阪急生活楽校「世界遺産マチュ・ピチュー神秘のベールを剥ぐ」
3. 主 催 千里文化財団 阪急うめだ本店
4. 特別協力 国立民族学博物館
5. 開催日時 11月26日(月) 14:00~15:30 (開場: 13:30)
6. 講 師 関 雄二(民博教授)
7. 会 場 阪急うめだ本店
8. 参加者数 54名
9. 参 加 費 1,000円 / 友の会会員 500円



阪急うめだホールでの講演会

**巡回展「国立民族学博物館コレクション
ビーズ — つなぐ・かざる・みせる」開催報告
(岡山市立オリエント美術館特別展)**

1. 名 称 ドルフィン・メイトこども園プレゼンツ／39オリエント／RSK テレビ 60 周年
国立民族学博物館コレクション ビーズ — つなぐ・かざる・みせる
2. 概 要 国立民族学博物館が所蔵する世界各地の標本資料を中心に活用して、巡回展をおこなった。
この巡回展をととして、私たち人類ホモ・サピエンスの文化の特質を理解する機会を設けることができた。今回の巡回展では、特定の地域の文化に焦点を当てたものではなく、人類共通の文化である世界中のビーズ工芸を集め、そのさまざまなデザインやアイデアを楽しむと同時に、ビーズという一つの視点を通じて世界の人々の文化を通覧し、人間の共通性や多様性を再確認する機会を提示しようとした。また、岡山市立オリエント美術館での巡回であったため、2017 年に国立民族学博物館で開催された特別展示「ビーズ」のなかでも中心となるビーズ資料に焦点を絞るとともに、古代オリエントにおけるビーズの特色を解説するため、展示構成に「古代オリエント」セクションを加え、新たな展示の世界を紹介した。
3. 主 催 岡山市立オリエント美術館 国立民族学博物館 RSK 山陽放送 千里文化財団
4. 開催期間 2018 年 9 月 22 日（土）～ 11 月 25 日（日）（56 日間）
5. 開館時間 9：00～17：00（入館は閉館の 30 分前まで）
10 月 10 日（水）は開館延長（21：00 まで）
6. 会 場 岡山市立オリエント美術館〈岡山市北区天神町 9-31〉
展示室 1F（368 m²）・2F（501 m²）
7. 展示点数 計 449 点
（岡山市立オリエント美術館資料 87 点、他ミュージアム・個人所蔵資料 126 点含む）
8. 企 画 国立民族学博物館
9. 特別協賛 ドルフィン・メイトこども園
10. 後 援 岡山県、岡山県教育委員会、岡山市、岡山市連合町内会、岡山市連合婦人会、岡山市 PTA 協議会、公益社団法人岡山県文化連盟、岡山オリエント協会、岡山市立オリエント美術館友の会、山陽新聞社、朝日新聞岡山総局、読売新聞岡山支局、毎日新聞岡山支局、中国新聞備後本社
11. 観 覧 料 一般 1,000(前売 800)円、満 65 歳以上／高大生 800(前売 600)円、小中生 500 円
※20 名以上の団体は各 200 円引。
国立民族学博物館友の会会員は会員証提示で団体料金。
12. 入場者数 7,205 人

13. 関連事業

ギャラリートーク

オリエント美術館担当学芸員のギャラリートーク 会場：展示室

解説：須藤 寛史

開催日： 9 月 22 日（土）11：00～ 聴講数：28 名
 10 月 13 日（土）14：00～ 聴講数：10 名
 10 月 27 日（土）11：00～ 聴講数：16 名
 11 月 10 日（土）14：00～ 聴講数：14 名

展示企画者によるギャラリートーク 会場：展示室

解説：池谷 和信（国立民族学博物館）

開催日： 11 月 4 日（土）11:00～ 聴講数：28 名

ワークショップ

「マールブルビーズを作ろう！／円筒印章を作ろう！」会場：光庭（2階）

講師：オリエント美術館館員

開催日：9 月 22 日（土）13:30～15:30 参加費：無料 参加数：30 名

「マールブルビーズを作ろう！／世界のネックレス試着」会場：光庭（2階）

講師：オリエント美術館館員

開催日：10 月 6 日（土）13:30～15:30 参加費：無料 参加数：47 名

「ビーズ体験ワークショップ「粘土で作ろう！トンボ玉」会場：中央ホール

講師：高見 妙（古代オリエント博物館教育普及員）

開催日：10 月 20 日（日）13：30～16：30 参加数：53 名

「ビーズ体験ワークショップ「ビーズで作ろう！ビーズワーク体験」会場：中央ホール

講師：笠原 リカ（岡山県職員）

開催日：10 月 28 日（日）10：00～12：00・14：00～16：00

定員：各回 10 名（事前申込・抽選）参加費：特別入館料と 500 円

「粘土で作ろうトンボ玉！」会場：光庭（2階）

講師：オリエント美術館館員

開催日：11 月 3 日（土） 参加数 35 名

開催日：11 月 17 日（土）13：30～15：30 参加数 40 名

講演会等

講演会：世界のビーズ講座第 1 回

装身具から見た社会－南アジアのカーネリアン・ロードを巡って」

講師：遠藤 仁（人間文化研究機構／秋田大学研究員）

開催日：9 月 29 日（土）13：30～16：00 会場：地下講堂

聴講数：28 名

講演会：世界のビーズ講座第 2 回

「人間にとってビーズとは何か？－つなぐ・かざる・みせる」

講師：池谷 和信（国立民族学博物館）

開催日：10 月 27 日（土）13：30～ 会場：地下講堂

聴講数：48 名

シンポジウム：世界のビーズ講座特別版

「人類とビーズ文化、文明のビーズー縄文、エジプト、現代社会ー」

講師：池谷 和信（国立民族学博物館）、松本 直子（岡山大学）、
山花 京子（東海大学）

開催日：11 月 4 日（日）13:30～16:30 会場：地下講堂

聴講数：41 名

トークイベント：みんぱく友の会・オリ美友の会相互企画トークイベント

「時と場所をつなぐビーズ」

講師：池谷 和信（国立民族学博物館）、四角 隆二（岡山市立オリエント美術館）、
坂 憲一（トーホー株式会社）

開催日：11 月 25 日（日）13：30～15：30 会場：中央ホール

聴講数：65 名

14. 広報	テレビ：RSK（「4 時なま」：	9 月 2 1 日（金）
	RSK「イブニングニュース」：	9 月 2 1 日（金）
	NHK（「ひるまえ直送便」：	10 月 26 日（金）
	新 聞：朝日新聞（中国版、岡山版）掲載：	10 月 17 日（水）
	山陽新聞（朝刊）掲載：	11 月 10 日（土）、11 月 13 日（火）
	ラジオ：RSK ラジオ（朝耳らじお）	10 月 25 日（木）
	NHK ラジオ（「おはよう中国」）：	11 月 9 日（金）

貸借対照表

平成31年3月31日 現在

科目	当年度	前年度	増減
I 資産の部	円	円	円
1. 流動資産			
(1) 現金預金	13,529,684	18,898,268	△ 5,368,584
(2) 未収入金	21,193,009	21,564,571	△ 371,562
(3) 貯蔵品	38,902,802	39,471,100	△ 568,298
(4) 前払費用	1,929,532	1,721,878	207,654
流動資産合計	75,555,027	81,655,817	△ 6,100,790
2. 固定資産			
基本財産			
(1) 基本財産特定資産	30,000,000	25,500,000	4,500,000
その他の固定資産			
(1) 車輛	1	33,322	△ 33,321
(2) 什器備品	539,302	656,325	△ 117,023
(3) 電話加入権	594,951	594,951	0
(4) 差入保証金	1,100,000	1,100,000	0
固定資産合計	32,234,254	27,884,598	4,349,656
資産合計	107,789,281	109,540,415	△ 1,751,134

科目	当年度	前年度	増減
II 負債の部	円	円	円
1. 流動負債			
(1) 未払金	86,930,592	94,145,162	△ 7,214,570
(2) 預り金	274,594	267,204	7,390
流動負債合計	87,205,186	94,412,366	△ 7,207,180
負債合計	87,205,186	94,412,366	△ 7,207,180
III 正味財産の部			
正味財産	20,584,095	15,128,049	5,456,046
負債及び正味財産合計	107,789,281	109,540,415	△ 1,751,134

■2018 年度理事会及び評議員会の開催状況

□理事会

第 30 回理事会（2018 年 5 月 31 日開催）での審議事項

- 審議事項：
- 第 1 号議案：2017 年度事業状況報告について
 - 第 2 号議案：2017 年度収支決算報告について
 - 第 3 号議案 顧問の選任について
 - 第 4 号議案 評議員の辞任に伴う後任候補者の推薦について
 - 第 5 号議案 理事の辞任に伴う後任候補者の推薦について
 - 第 6 号議案 基本財産への繰り入れについて
 - 第 7 号議案 第 14 回評議員会の招集及び付議議案について

報告事項： 「国立民族学博物館友の会」の増強について 他

第 31 回理事会（2018 年 10 月 16 日開催）での審議事項

半期毎の事業状況報告及び追加事業について諮り、報告事項とともに承認された。

- 審議事項：
- 第 1 号議案 2018 年度上半期実施事業報告について
 - 第 2 号議案 2018 年度下半期追加事業報告について

報告事項：

- ・臨時休館に伴う友の会会員への対応について
- ・維持会員の増強について
- ・2019 年度事業計画（案）について

第 32 回理事会（2018 年 11 月 27 日開催 ※書面）での審議事項

評議員候補者の推薦について書面で諮り、承認された。

- 審議事項：
- 第 1 号議案 評議員候補者の推薦について
 - 第 2 号議案 第 15 回評議員会の開催（書面）及び付議議案について

第 33 回理事会（2019 年 2 月 26 日開催）での審議事項

- 審議事項：
- 第 1 号議案 2019 年度事業計画(案)について
 - 第 2 号議案 2019 年度収支予算(案)について
 - 第 3 号議案 第 16 回評議員会の招集及び付議議案について

報告事項：

- ・公益財団法人の認定に向けた検討について
- ・基本財産の繰り入れについて

□評議員会

第14回 評議員会（2018年6月19日 ※書面）での審議事項等

第14回評議員会は、6月18日の大阪北部地震に伴う臨時休館により、みなし決議に切り替えて開催することとなり、下記の内容について諮り全員が了承した。

審議事項：	第 1 号議案	2017 年度事業状況報告について
	第 2 号議案	2017 年度収支決算報告について
	第 3 号議案	評議員の辞任に伴う選任について
	第 4 号議案	理事の辞任に伴う選任について

第 3 号議案 評議員の辞任に伴う選任について

辞任届提出者：

- 1) 石原 仁司 氏：オムロン株式会社総務部長
- 2) 野崎 光男 氏：阪急電鉄株式会社常務監査役
- 3) 時政 幸雄 氏：関西電力株式会社常務執行役員

後任候補者：

- 1) 大塚 順一 氏：阪急電鉄株式会社 常務取締役
2) 武市 泰夫 氏：関西電力株式会社 秘書部長

第15回 評議員会（2018年12月18日）での審議事項等

第15回評議員会は、みなし決議により、評議員の選任下記の内容について諮り全員が了承した。

審議事項： 評議員の選任について
評議員候補者： 若林 正哉 氏
(ワコールホールディングス株式会社 取締役副社長)

第16回 評議員会（2019年3月19日※書面）での審議事項等

第16回評議員会の決議があったものとみなされた事項の内容

審議事項： 第1号議案：2019年度事業計画（案）について
第2号議案：2019年度収支予算（案）について